

第3期中期目標・中期計画における臨床研究総括報告書

診療科（部）名：口腔総合診療部

主な臨床研究課題

- (1) ヒト象牙質における MMP ファミリーの局在とその機能解析
- (2) 生体組織における AGEs 沈着のメカニズム解析と疾病診断への応用
- (3) 電子版臨床実習・臨床研修連携ログブックの開発

上記臨床研究の成果（発表済の論文がある場合はその論文を付記してください）

(1) Matsuda Y, Miura J, Shimizu M, Aoki T, Kubo M, Fukushima S, Hashimoto M, Takeshige F, Araki T. 2016. Influence of Nonenzymatic Glycation in Dentinal Collagen on Dental Caries. *J Dent Res.* 95(13) : 1528-1534.

(2)

(3)

第4期に向けての計画・展望

抜去歯を用いた象牙質内およびう蝕などに罹患した組織の糖化関連物質の局在測定が終わり、現在精度の高い抽出方法や検出方法を構築する基礎実験を進めているところである。本手法の確立により生体内糖化の客観的な指標が測定できることになり、現在、高精度の検出手法および機材の開発を進めている。

令和3年度には臨床研修制度の大幅な見直しが予定されており、それに伴い令和4年度には臨床研修プログラムも一新される。今後も新しい制度に適合するようシステムの改修ならびに新たな機能の開発に取り組む予定である。